

平成 29 年度熱中症関連予算概算要求

(単位：千円)

省 庁 名	29年度 予算概算要求額	主 な 施 策 概 要
消防庁	<p>通常業務の一環として実施</p> <p>消防防災等業務庁費の内数 (2,441)</p>	<p>熱中症による救急搬送人員数調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 消防庁ホームページに、週ごとに速報値、月ごとに確定値として公表する。 <p>熱中症予防啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 熱中症対策リーフレット、予防啓発ビデオ、予防啓発イラスト、予防啓発広報等を消防庁ホームページに掲載し、熱中症の予防方法や応急手当等を周知する。 ツイッターを用いて熱中症についての注意情報等を発信する。
文部科学省	<p>公立学校施設整備費(188,088,550)の内数(内閣府で計上している沖縄分を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公立学校施設について、地方公共団体からの計画を踏まえ、空調設備の設置を支援している。
厚生労働省	<p>(労働基準局安全衛生部労働衛生課)</p> <p>通常業務の一環として実施</p> <p>職場における熱中症予防に用いる機器の適正な使用方法周知事業 (7,653)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職場の熱中症対策として、直近10年間の職場における熱中症による死傷者数を取りまとめ、当年の熱中症予防対策とともに厚生労働省ホームページに掲載する。 熱中症予防対策のため、WBGT値(暑さ指数)を正確に把握し、作業環境管理を行うために、適切な機器の選定や使用方法について、周知を図る。

農林水産省	通常業務の一環として実施	<ul style="list-style-type: none"> ・農作業中の熱中症予防のための留意点について、各都道府県や関係団体へ通知を発出し、現場の農業者等へ周知及び指導徹底を行う。熱中症事故の発生状況に応じ、随時追加の通知発出も検討する。 ・農林水産省Facebook、Twitter、メールマガジン、ホームページ等で農作業中の熱中症の予防方法や応急処置について啓発を行う。 ・「熱中症予防声かけプロジェクト」と連携し、ポスター及びチラシを作成する。行政機関やJA、民間企業などに配布するとともに、農林水産省のホームページに掲載する。 ・熱中症計等の熱中症予防に資するグッズや機能性の高い農作業ウェアについて利用推進を図る。
気象庁	通常業務の一環として実施	<ul style="list-style-type: none"> ・全国各地の気温の観測情報及び予測情報の提供 (気象観測や予報を行うために必要な経費の内数で実施)
環境省	<p>(環境安全課) 熱中症対策推進事業 (70,974)</p> <p>(大気生活環境室) 熱中症予防情報の継続提供 (31,521)</p> <p>オリパラ暑熱環境測定事業 (31,000)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症に関する啓発資料作成事業 環境保健マニュアルやパンフレット等の作成・配布による普及啓発を行う。 ・熱中症対策に係る指導者養成事業 自治体の担当職員や一般の方を対象にしたシンポジウムを、ICTも活用しつつ各地で幅広く開催する。 ・熱中症予防強化月間における熱中症予防事業 7月を中心に普及啓発イベント等を各地で展開する。 ・東京オリンピックに向けた熱中症に関する普及啓発事業 平成27年度に暫定的に作成した「夏季のイベントにおける熱中症対策ガイドライン2016-暫定版-」を活用して、効果や有効性等を調査する。また、マニュアルの更新も行い両者の統合を検討する。更に、外国人に対する普及啓発を行うため意識調査や啓発活動を行う。 ・全国9地点で黒球温度計を設置して、熱中症のかかりやすさを示す暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度):Wet Bulb Globe Temperature)を算出し、熱中症予防情報サイトで提供している。平成29年度は、4月中旬から提供予定。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、主要競技会場周辺等の気温、湿度、黒球温度(日射等の輻射熱)等を測定し、それぞれの場所を代表する暑さ指数(WBGT)を暑さ指数に関する知見を得て、大会開催期間の熱中症予防情報の発信等において活用予定。